

平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月23日

上場取引所 東

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

コード番号 2268 URL <http://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 裕明

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 兼 経営企画室長 (氏名) 門田 浩

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	14,305	△10.5	550	△65.3	578	△64.6	321	△65.7
25年12月期第3四半期	15,981	△0.4	1,588	△26.1	1,636	△25.4	937	△22.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年12月期第3四半期	33.33	—
25年12月期第3四半期	97.24	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	16,532		10,768			65.1
25年12月期	15,787		11,224			71.1

(参考)自己資本 26年12月期第3四半期 10,768百万円 25年12月期 11,224百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年12月期	—	40.00	—	40.00	80.00
26年12月期	—	40.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	18,500	△9.9	850	△56.7	900	△56.1	500	△55.7	51.89

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記情報)に関する事項(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期3Q	9,644,554 株	25年12月期	9,644,554 株
26年12月期3Q	8,561 株	25年12月期	8,561 株
26年12月期3Q	9,635,993 株	25年12月期3Q	9,635,993 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	9
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（平成26年1月～9月）における我が国経済は、円安効果による輸出環境の改善や経済政策の効果により景気は緩やかな回復を続け、個人消費も底堅く推移いたしました。しかし、震災以降の消費行動の変化による外食市場の縮小と中食増加など、お客様の消費選別がますます進展いたしました。その影響により外食業界では業態を超えた競争が激化し、更に4月の消費増税による可処分所得の実質目減りなどの国内景気の下振れ要因もあり、依然ファストフードにおいても厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーであります“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて皆様に幸せを。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN（楽しいこと、嬉しいこと、感動すること）”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

また、4月からは、顧客基盤の拡大を目標とした「Re-branding」（ブランドの再構築）のため「サーティワン LOVE」をテーマとした広告宣伝活動を始動いたしました。TVCMについてはキャンペーン告知からブランディングを中心に、店頭・店内の販促用材もアイスクリームのおいしさ・たのしさを訴求するものに変更し、これまで女子高校生・主婦層が顧客の中心だったブランド・イメージを一新して、サーティワンから暫く離れていたファンや新しい顧客の来店促進を図り売上の向上を目指しております。

営業面においては、1月はアイスクリームの詰め合せ商品であるバラエティパック・ギフトボックスをお買い上げのお客様に、‘スヌーピー’スクエアディッシュをプレゼントするニューイヤープロモーション（1月1日～1月13日）を実施し、フレーバーのバラエティさ・楽しさを訴え、高単価商品の拡販とヘビーユーザーの再来店を促進いたしました。

引き続き冬場のテイクアウト商品として、テイクアウト用保冷バッグやアイスクリームのパッケージも全て‘ミッキー&ミニー’のデザインとした期間限定の新品「‘ミッキー&ミニー’Love♥Loveバッグセット」（1月14日～3月14日）を販売し、お客様の購買意欲を高めました。

また、通年商品として“‘ミッキー&フレンズ’アイスクリームパーティーセット”を新発売し、テイクアウト商品ラインナップの強化を図っております。

3月の「ひなまつり」（2月15日～3月3日）では、“ひなだんかざり”、“おひなさまカップ”、ひなまつり仕様のアイスクリームケーキなど期間限定商品を販売いたしました。更に2月28日までに“ひなまつりアイスクリームケーキ”をご予約いただいたお客様に「キッズクーポン券」プレゼントを実施しオケージョン商戦の売上を確保いたしました。

3月4日からは、4年目を迎える「ワンダフルイースター」（3月4日～3月30日）を実施いたしました。イースターらしいタマゴをモチーフにした“エッグカップサンデー”に新品“ダブルエッグカップサンデー”を加え、持帰り商品の“イースターバラエティBOX”、イースターに因んだアイスクリーム2種類（ヨーグピーチファン、イースターエッグハント）を販売し、3月の売上増を図りました。

なお、昨年12月26日から4月24日の期間は、苺の美味しさをたっぷり味わえる“フレッシュストロベリーサンデー”を販売し、アイスクリーム専門店サーティワンならではのシーズンサンデーを提供することによりブランドの差別化を図っております。

また、4月1日から4月24日の期間は昨年11月に新発売の人気商品“トリプルポップ”（ミニサイズのアイスクリーム3種が一度に楽しめる商品）を更に多くのお客様に認知していただくため、「トリプルポップ・プロモーション」を実施いたしました。

アイスクリーム・ドリンクについては4月よりメニューを一新し、定番のシェイク、お子様から若い女性に人気のポッピングソーダに、ラテ・カプチーノ・モカ・ナッツキャラメル4種類の新カフェ・ブラスト、新発売のフルーツ・フリーズ2種（マンゴオレンジ、シトラスベリー）を加え、20代から30代の女性など幅広い顧客層にも魅力あるラインナップといたしました。5月12日から5月25日までは「アイスクリーム・ドリンク」プロモーションを実施し、アイスクリーム・ドリンクをお買い上げのお客様全員に‘スヌーピー’スマホスタンドをプレゼントするとともに、LINE公式アカウントで友だち限定50円OFFクーポンを配信（5月12日～6月11日）し、新しいアイスクリーム・ドリンクの訴求に取り組みました。

ゴールデンウィーク期間中（4月25日～5月9日）はダブルコーン・ダブルカップを31%値引きして提供するキャンペーンを行ない、TVCMでの告知を実施しヘビーユーザーや新しい顧客へ周知し来店促進を図りました。

6月12日からは、昨年40周年プロモーションとして大好評だった「HAPPY 4 YOU」プロモーションを今年も実施（6月12日～7月30日）しました。これはトリプルポップを注文するとミニサイズのPOPスクープをもう1個プレゼントし、

アイスクリームが4種類も選べるお得なプロモーションです。これについても期間中TVCMで告知をして拡販を図りました。

戦略商品のアイスクリームケーキでは、7月25日「‘ミッキー’ Choo-Chooトレイン」、「ドレスアップ ‘ミニーちゃん’」、8月2日「パレット6 パティシエ コレクション」を新発売し、より魅力的なラインナップにしました。

8月は新しいプロモーション「TRY&GETサマー!!」(8月1日～9月9日)を実施しました。期間中お買上げ300円ごとにフレーバー・シールがもらえ、シールに付いているクジで「当たり」が出たら10,000名様にオリジナル・トートバッグをプレゼント、またフレーバー・シールを5枚集めるとキッズコーンまたはカップと引き換えられるダブル・チャンスのプロモーションで、更にTVCMを放映し新規客誘引と再来店促進を図りました。

同時期に期間限定商品“ゼリーカップサンデー”(8月1日～9月9日)を発売しました。オリジナルのゼリーの上にお好きなレギュラー・サイズのアイスクリームをのせた、夏に爽やかに食べられるサンデーです。

更に、追加の売上増進策として8月1日から6日まで「毎日がサーティワンの日、ダブルコーン・ダブルカップ31%OFF」を実施し、お盆の時期にはTVCMやLINEでバラエティパックを訴求して、最盛期の売上を確保しました。

9月の連休には今年もダブルコーン・ダブルカップを31%値引きするキャンペーン(9月10日～9月23日)を実施し、TVCMやLINEによるキャンペーン告知をしてお客様の来店促進を図りました。また、今年初めて9月30日を「サーティワンの日」とし、ダブルコーン・ダブルカップを31%OFFしました。

なお、5月11日には全国1,105店舗において、募金をしてくださったお客様全員にレギュラー・シングルコーンを1つプレゼントする社会貢献イベント「フリースクープ」(今年で13年目)を実施し、全国で74万人以上のお客様に参加していただきました。お客様よりの募金と、当社からの寄付金を合わせた30,083,296円を、ユニセフを通じてアフリカ13ヶ国を対象に、学校の建設から黒板などの備品の購入、質の高い学校教材の開発、教員のトレーニングなど、教育における様々な支援をする活動「Schools for Africa」に役立てていただきます。

店舗開発の状況といたしましては、2014年から新しい店舗デザイン「Happy1.0」を導入し、店舗イメージ刷新を図っております。新しい店舗は当期24店開設し、当第3四半期末の店舗数は1,159店舗と前第3四半期末に対して23店舗増加いたしました。改装は当期50店実施し、既存店へも新しい店舗デザインの導入促進をいたしました。

以上のように、当第3四半期では商品の強化やキャンペーンの実施と出店・改装の推進により、売上増進に取り組んでまいりました。

しかし、売上高は消費意欲の低迷や消費税増税の影響に伴う外食市場の縮小傾向の進行と、2月の2度にわたる週末の記録的な大雪、最盛期7月の梅雨明けの遅れ、8月の西日本を中心とした大雨などの外的要因に加え、マーケティング施策の変更に伴いTVCMを「キャンペーン告知」から「ブランド醸成」へ移行したことで最盛期6月と8月のキャンペーン内容が顧客へ十分浸透せず来店客数が減少いたしました。更に、戦略商品「アイスクリームケーキ」の新商品発売タイミングの違い(前年4月下旬、今年7月下旬)による販売期間縮小と商品訴求方法の差による販売量の減少等の内的要因が加わり、143億5百万円(前年同期比10.5%減)という結果となりました。

売上原価は、売上高に連動して減少したものの、国内乳原料価格上昇及び円安による輸入原材料価格上昇が影響した結果、62億11百万円(前年同期比4.8%減)となっております。

販売費及び一般管理費は、75億43百万円(前年同期比4.1%減)となりました。これは主に広告宣伝費のSNS活用とTVCM変更等による減少(1億66百万円)、配送費及び倉庫料の物量減に伴う減少(83百万円)、及び効率化等による人件費の減少(72百万円)によるものであります。

以上の結果、販売費及び一般管理費は抑えたものの売上減少と売上原価上昇の影響を吸収することができず、営業利益が5億50百万円(前年同期比65.3%減)、経常利益は5億78百万円(前年同期比64.6%減)、四半期純利益は3億21百万円(前年同期比65.7%減)となりました。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ7億45百万円増加の165億32百万円となりました。これは、配当金と法人税等の支払による現金及び預金の減少と売上の減少による売掛金の減少等がありましたが、新工場建設による建設仮勘定の増加、法人税等の中間納付による未収還付法人税の増加、富士小山工場の一部生産設備更新による機械及び装置の増加と、新規出店による敷金及び保証金の増加等がそれらを上回ったため総資産は増加いたしました。

負債は前事業年度末に比べ12億1百万円増加の57億63百万円となりました。これは、法人税等の支払による未払法人税等の減少と商品券（アイスクリームギフト券）の回収が進捗したことによる前受金の減少等がありましたが、短期借入金の増加とショッピングセンター内店舗の売上金が当社を経由して加盟店に支払われるため一時的に発生する預り金の増加等がそれらを上回ったため負債は増加いたしました。

純資産は前事業年度末に比べ4億56百万円減少の107億68百万円となりました。これは主に剰余金の配当額が四半期純利益を上回ったため、繰越利益剰余金が減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、平成26年7月25日公表の「平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」から修正しております。詳細につきましては、本日（平成26年10月23日）に公表いたしました「平成26年12月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,004,401	2,438,215
売掛金	3,038,750	2,779,129
製品	812,510	855,982
原材料	429,030	493,648
貯蔵品	219,270	191,486
前渡金	18,211	24,641
前払費用	163,466	156,728
繰延税金資産	29,350	32,630
未収入金	19,324	53,116
未収還付法人税等	-	142,949
その他	124,884	153,263
貸倒引当金	△536	△437
流動資産合計	7,858,665	7,321,354
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,943,052	2,000,224
減価償却累計額	△1,174,806	△1,212,241
建物(純額)	768,245	787,982
構築物	300,783	332,417
減価償却累計額	△141,638	△150,709
構築物(純額)	159,145	181,708
機械及び装置	2,114,769	2,276,356
減価償却累計額	△1,714,148	△1,752,120
機械及び装置(純額)	400,621	524,235
賃貸店舗用設備	3,402,492	3,448,217
減価償却累計額	△1,752,674	△1,907,730
賃貸店舗用設備(純額)	1,649,818	1,540,487
直営店舗用設備	443,977	416,212
減価償却累計額	△165,160	△181,676
直営店舗用設備(純額)	278,816	234,536
車両運搬具	66,845	68,911
減価償却累計額	△32,148	△38,318
車両運搬具(純額)	34,697	30,592
工具、器具及び備品	695,400	729,837
減価償却累計額	△590,628	△624,396
工具、器具及び備品(純額)	104,772	105,440
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	476,749	1,684,768
有形固定資産合計	4,568,229	5,785,114
無形固定資産		
ソフトウェア	106,508	135,278
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	123,573	152,343

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	45,438	41,190
長期貸付金	3,401	2,708
従業員に対する長期貸付金	9,208	8,260
破産更生債権等	153,824	154,809
長期前払費用	616,176	521,357
繰延税金資産	121,981	124,187
敷金及び保証金	2,314,159	2,435,639
その他	19,685	19,685
貸倒引当金	△47,277	△34,531
投資その他の資産合計	3,236,597	3,273,307
固定資産合計	7,928,400	9,210,765
資産合計	15,787,066	16,532,119

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	495,992	531,328
短期借入金	-	1,000,000
未払金	1,308,343	1,380,160
未払費用	29,623	33,429
未払法人税等	209,760	-
未払消費税等	29,091	-
前受金	823,553	683,295
預り金	131,830	474,882
賞与引当金	30,296	102,895
役員賞与引当金	4,000	4,000
ギフト券回収損失引当金	2,032	-
その他	38,460	50,682
流動負債合計	3,102,983	4,260,673
固定負債		
退職給付引当金	169,484	174,715
役員退職慰労引当金	58,100	66,068
資産除去債務	84,023	83,880
長期預り保証金	1,148,075	1,178,550
固定負債合計	1,459,683	1,503,214
負債合計	4,562,667	5,763,888
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	5,905,910	5,456,214
利益剰余金合計	10,214,587	9,764,891
自己株式	△16,893	△16,893
株主資本合計	11,174,059	10,724,362
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,852	4,869
繰延ヘッジ損益	41,487	38,998
評価・換算差額等合計	50,340	43,868
純資産合計	11,224,399	10,768,231
負債純資産合計	15,787,066	16,532,119

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	15,981,918	14,305,709
売上原価	6,526,173	6,211,214
売上総利益	9,455,744	8,094,494
販売費及び一般管理費	7,867,666	7,543,550
営業利益	1,588,077	550,944
営業外収益		
受取利息	365	439
店舗用什器売却益	52,513	41,250
その他	13,387	2,389
営業外収益合計	66,266	44,079
営業外費用		
支払利息	-	1,000
店舗設備除去損	16,528	11,028
製品廃棄損	-	3,997
その他	1,136	251
営業外費用合計	17,665	16,277
経常利益	1,636,678	578,746
特別損失		
固定資産売却損	1,353	248
固定資産廃棄損	43,968	34,560
特別損失合計	45,321	34,808
税引前四半期純利益	1,591,356	543,937
法人税等	654,345	222,754
四半期純利益	937,011	321,183

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。